

## 合流式下水道緊急改善事業 事業評価シート

評価実施年月:平成28年3月

1. 対象事業	北部 処理区 合流式下水道緊急改善事業																		
2. 事業主体名称	尼崎市																		
3. 計画期間	平成 21 年度 ~ 平成25年度																		
4. 対象事業の進捗状況	平成25年度末における進捗状況は以下のとおり。 ○浸透施設 (H21～H25で浸透ます1,080箇所、浸透管1,830mを設置する計画[民間が設置する施設も含む])のうち、2,116箇所、5,390mを設置した。 ○夾雑物削減 (H21～H25で西川中継P、高田中継Pのスクリーン目幅を縮小化する計画)を全て整備した。																		
5. 目標の達成状況と達成の見通し	既計画の目標に対する達成状況と達成の見通し <table border="1"><thead><tr><th>区分</th><th>平成16年度末 (計画当初)</th><th>平成21年度末 (緊急目標年度)</th><th>平成25年度末 (当面の目標年度)</th></tr></thead><tbody><tr><td>汚濁負荷量の削減</td><td>100 %</td><td>100 %</td><td>100 %</td></tr><tr><td>公衆衛生上の安全確保</td><td>68 %</td><td>79 %</td><td>100 %</td></tr><tr><td>きょう雑物の削減</td><td>7 %</td><td>21 %</td><td>100 %</td></tr></tbody></table> ①汚濁負荷量の削減 浸透、ドライ化、遮集量の見直しにより達成。 ②公衆衛生上の安全確保 浸透、ドライ化、遮集量の見直しにより達成。 ③きょう雑物の削減 雨水沈砂池スクリーンの目幅縮小により達成。			区分	平成16年度末 (計画当初)	平成21年度末 (緊急目標年度)	平成25年度末 (当面の目標年度)	汚濁負荷量の削減	100 %	100 %	100 %	公衆衛生上の安全確保	68 %	79 %	100 %	きょう雑物の削減	7 %	21 %	100 %
区分	平成16年度末 (計画当初)	平成21年度末 (緊急目標年度)	平成25年度末 (当面の目標年度)																
汚濁負荷量の削減	100 %	100 %	100 %																
公衆衛生上の安全確保	68 %	79 %	100 %																
きょう雑物の削減	7 %	21 %	100 %																
6. 対象事業の整備効果の発現状況等	○雨天時放流水の水質検査において、平成17年度は降雨時のBOD42mg/ℓであったが、浸透施設の整備、ドライ化、遮集量の見直しにより、平成26年度の結果は降雨時のBOD19mg/ℓとなり、一定の整備効果が得られた。さらに、水質を良くするため、浸透施設の整備を進めている。																		
7. 事業の効率化に関する取り組み状況	○これまで、浸透施設の整備などに取り組んできた。既存ストックを的確に評価、活用することにより、事業の効率化を図った。 ○雨水流出量が抑制されれば合流式下水道の改善に効果を発揮するので、雨水の浸透などによって河川がきれいになることをPRした。																		
8. 今後の方針	○過年度から実施している浸透施設の整備、遮集量の見直しを継続していくことで、より効率的に未処理放流回数の低減を図る。																		

## 合流式下水道緊急改善事業 事業評価シート

評価実施年月:平成28年3月

1. 対象事業	東部 処理区 合流式下水道緊急改善事業																		
2. 事業主体名称	尼崎市																		
3. 計画期間	平成 21 年度 ~ 平成25年度																		
4. 対象事業の進捗状況	平成25年度末における進捗状況は以下のとおり。 ○浸透施設(H21~H25で浸透ます1,250箇所、浸透管2,420mを設置する計画[民間が設置する施設も含む])のうち、2,296箇所、5,939mを設置した。 ○貯留施設(東部雨水Pで430m <sup>3</sup> の貯留を行う)は、既存施設を活用して1,400m <sup>3</sup> の滞水地を整備した。 ○夾雑物削減(H21~H25で東部雨水P、中在家中継Pのスクリーン目幅を縮小化する計画)を全て整備した。																		
5. 目標の達成状況と達成の見通し	既計画の目標に対する達成状況と達成の見通し <table border="1"><thead><tr><th>区分</th><th>平成16年度末 (計画当初)</th><th>平成21年度末 (緊急目標年度)</th><th>平成25年度末 (当面の目標年度)</th></tr></thead><tbody><tr><td>汚濁負荷量の削減</td><td>100 %</td><td>100 %</td><td>100 %</td></tr><tr><td>公衆衛生上の安全確保</td><td>56 %</td><td>56 %</td><td>100 %</td></tr><tr><td>きょう雑物の削減</td><td>32 %</td><td>53 %</td><td>100 %</td></tr></tbody></table> ①汚濁負荷量の削減 浸透、ドライ化、遮集量見直しにより達成。 ②公衆衛生上の安全確保 浸透、ドライ化、遮集量見直し、貯留により達成。 ③きょう雑物の削減 雨水沈砂池スクリーンの目幅縮小により達成。			区分	平成16年度末 (計画当初)	平成21年度末 (緊急目標年度)	平成25年度末 (当面の目標年度)	汚濁負荷量の削減	100 %	100 %	100 %	公衆衛生上の安全確保	56 %	56 %	100 %	きょう雑物の削減	32 %	53 %	100 %
区分	平成16年度末 (計画当初)	平成21年度末 (緊急目標年度)	平成25年度末 (当面の目標年度)																
汚濁負荷量の削減	100 %	100 %	100 %																
公衆衛生上の安全確保	56 %	56 %	100 %																
きょう雑物の削減	32 %	53 %	100 %																
6. 対象事業の整備効果の発現状況等	○雨天時放流水の水質検査において、平成17年度は降雨時にBOD61mg/ℓであったが、浸透施設の整備、ドライ化、遮集見直し、貯留により、平成26年度の結果は降雨時のBOD35mg/ℓとなり、一定の整備効果が得られた。さらに、水質を良くするため、浸透施設の整備を進めている。																		
7. 事業の効率化に関する取り組み状況	○これまで、浸透施設の整備などに取り組んできた。既存ストックを的確に評価、活用することにより、事業の効率化を図った。 ○雨水流出量が抑制されれば合流式下水道の改善に効果を発揮するので、雨水の浸透などによって河川がきれいになることをPRした。																		
8. 今後の方針	○過年度から実施している浸透施設の整備、遮集量の見直しを継続していくことで、より効率的に未処理放流回数の低減を図る。																		